
ある朝の会話（地の文無し練習）

未定

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある朝の会話（地の文無し練習）

【Nコード】

N5276BA

【作者名】

未定

【あらすじ】

会話の練習です。

地の文を全て省き、会話だけでさりげなく何処まで状況説明できるかを試してみました。

女子高生の会話を材料にしましたが、女性の方は不快に思われるかもしれません。

ほんの少しエッチな内容になっています。

「おお！ ユツキまた大きくなったんじゃない？」

「ちよつと、いつも止めてっていつてるでしょ！ 揉むなら自分のにしないよ」

「何言ってるの。小さいのより大きい方が揉みごたえあるじゃない。おっきい胸特有のふによつていうかふわふわした触感なのにずっしりと来るのが良いんじゃない！ ユツキは解ってないな」

「そんなオヤジ臭いこといってないで、いい加減止めなさい！」

「えゝ。少しくらい良いじゃん。減るもんじゃないし、むしろ増えるよ！」

「これ以上は要りません！」

「もう、顔真っ赤にしちゃつて。感じてきちゃった？ つて、痛つ、痛い痛い痛い。抓るのやめて！」

「じゃあ、アイも手を離して」

「ホント痛ったーい。爪の後のこつてんじゃん」

「自業自得でしょ」

「せつかく気持ち良くさせてあげたのにー」

「気持ち良くない！」

「えー、キョニユーはビンカンって聞いたのに」

「私は鈍感って聞いたわよ」

「んー、じゃあ放課後ユツキンちでもう一度試そうよ！」

「ほら、駅着いたし馬鹿なこと言ってるので降りるよ」

（後書き）

欧米の小説のような地の文が無駄に長く感じる小説は読みにくくて、個人的に嫌いだったのです。

しかし、自分の小説を読み直して見ると、地の文での説明が多過ぎて、クドイ文章でした。

それでも、個人的には説明し足りない部分が多々あったので、会話の中に説明を含ませようと思いました。

が、コミュニケーション能力が低い為になかなか困難だったので、練習として本作を書きました。

ご感想、ご助言などよろしくお願いします。

なお、本作の文章は私が通勤途中でリアルに目撃した女子高生の会話をこれでもまだ”オブラート”にした内容です。

自主規制しないといけないような内容をごっそりと省いています。

何と言いますか、今の子どもたちはなかなかフリーダムですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5276ba/>

ある朝の会話（地の文無し練習）

2012年1月14日17時47分発行